

平成22年10月及び平成23年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験  
答案作成上の注意

専門分野	倫 理 学
------	-------

1. 試験に関する注意

① 試験開始後、直ちに下記の問題枚数等を確認してください。

問題枚数	3枚
解答用紙	3枚
下書用紙	1枚

② 受験番号は、すべての解答用紙の所定の欄に記入してください。

2. 解答記入に関する注意

解答はすべて解答用紙に記入してください。

平成22年10月及び平成23年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験問題

専門分野	倫 理 学
------	-------

(1枚中の3枚目)

I (英語問題)

次の文章を読み後の間に答えよ。

1. If he have obeyed the impulses of ① conscience, and resisted successfully the impulses at variance with it, he will be conscious of a feeling of innocence, of self-approbation, of desert of reward. If the action have been done by another, he will feel towards him a sentiment of respect, of moral approbation, and a desire to see him rewarded, and, on many occasions, to reward him, himself.
2. If he have disobeyed the impulses of conscience, he will be conscious of guilt, of self-abasement, and self-disapprobation or remorse, and of desert of punishment. If ② it have been done by another, he will be conscious of a sentiment of moral disapprobation, and of a desire that the offender should be punished ; and, in many cases, to punish him himself. Of course, I do not say that all these feelings can be traced, by reflection upon every action, but I think, that in all cases, in which our moral sensibilities are at all aroused, we can trace some, and frequently all of them.

(Francis Wayland, THE ELEMENTS OF MORAL SCIENCE. New York: Cooke & Co. 1835, p.42)

- 問1 下線部①に対応する日本語の語彙並びに日本語以外の外国語（例えば、ドイツ語）の語彙を挙げ、さらにその一般的な意味を記せ。
- 問2 下線部②はどのような状況を述べているのか、具体的に説明せよ。
- 問3 文章全体の趣旨を書け。

(答えはすべて解答用紙に書くこと)

平成22年10月及び平成23年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験問題

専門分野	倫 理 学
------	-------

(2枚中の3枚目)

II (ドイツ語問題)

次の文章はヴィンデルバントの『プレルーディエン』からの抜粋である。読んで後の問に答えよ。

Dies Pflichtbewußtsein ist jedoch, wie sich von selbst versteht, ein lediglich *formales* Prinzip. Es besagt nur, daß überhaupt nach einer Norm gewollt und gehandelt werden soll, aber es besagt über den Inhalt dieser Norm nichts. Der oberste Grundsatz der Sittlichkeit, das höchste Gebot lautet; tue deine Pflicht! Aber er sagt nicht, was die Pflicht sei; er verlangt nur, daß, *welches auch im einzelnen Falle die Pflicht sei*, diese getan werde.

注 formal : 形式的な                      besagen : 意味する                      Norm : 規範  
Grundsatz : 原則                      Gebot : 命令                      lauten : (という) 内容である  
verlangen : 要求する

問1 全文の大意を述べよ

問2 「Pflichtbewußtsein」はどのように形成されると思うか?あなたの意見を述べよ。

(答えはすべて解答用紙に書くこと)

平成22年10月及び平成23年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験問題

専門分野	倫 理 学
------	-------

(3枚中の3枚目)

Ⅲ (日本語問題)

次の文章は、『正法眼藏』(岩波書店)からの抜粋である。読んで後の問に答えよ。

諸法の仏法なる時節、すなはち迷悟あり、修行あり、生あり、死あり、諸仏あり、衆生あり。方法ともにわれにあらざる時節、まどひなくさとりなく、諸仏なく衆生なく、生なく滅なし。仏道もとより豊儉より跳出せるゆゑに、生滅あり、迷悟あり、生仏あり。

しかもかくのごとくなりといへども、花は愛惜にちり、草は棄嫌におふるのみなり。

自己をはこびて方法を修証するを迷とす、万法すゝみて自己を修証するはさとりなり。迷を大悟するは諸仏なり、悟に大迷なるは衆生なり。さらに悟上に得悟する漢あり、迷中又迷の漢あり。諸仏のまさしく諸仏なるときは、自己は諸仏なりと覚知することをもちゑず。しかあれども証仏なり、仏を証してもてゆく。

身心を挙して色を見取し、身心を挙して声を聴取するに、したしく会取すれども、かゞみに影をやどすがごとくにあらず、水と月のごとくにあらず。一方を証するときは一方はくらし。

仏道をならふといふは、自己をならふ也。自己をならふといふは、自己をわするゝなり。自己をわするゝといふは、万法に証せらるゝなり。万法に証せらるゝといふは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり。悟迹の休歇なるあり、休歇なる悟迹を長々出ならしむ。

問1 この文章の著者は鎌倉時代の初めに活躍した禅僧である。彼の(1)名前と(2)創設した宗派名を答えよ。

問2 次の語の意味を簡潔に述べよ。

- (1) 諸行無常 (2) 諸法無我 (3) 縁起 (4) 色即是空

問3 著者は、「相対的な現実世界」と「悟りの境地」についてどのような立場をとっているか。本文の言葉を用いて述べよ。

問4 下線部について文章の意味を解説せよ。

問5 あなたが修士課程で取り組もうと考えている課題と、ここで取り上げた仏教思想の物の見方を比較して、思うところを述べよ。

(答えはすべて解答欄に書くこと)